

近畿地方整備局 様
淀川水系流域委員会 様

「河川整備計画原案への質問回答」に対する再質問と意見

河川整備計画原案について理解できない事項があり、07/10/14付等で質問をし回答をいただきましたが、尚下記の内容について理解できず委員会で十分な審議をいただくとともに、整備局の考えをご回答いただきますようよろしくお願いいたします。

07/12/10 宇治「防災を考える市民の会」 梅原 孝

- ① 受付番号 1225 267 への再質問② 「今後の人口見通しについて把握していない」では済みません。利水者から資料提出をさせ公表して判断すべきです。
- ② 受付番号 1226 1088 への再質問① この資料からは実数が読み取れません。回りくどいい方でなしに、3市1町だけがなぜ他自治体と違うのか、実数でお示してください。
- ③ 受付番号 1231 895 への再質問① 10日間以上も続く前期後期の放流に耐える堤防には、「ドレーン工法」が良いとのことですので、「3.4 キロはむろんのこと 22.5 キロ全てで同工法で施行する必要があるのでは」と質問しています。この回答では分かりかねます。
- ④ 受付番号 1232 974 への再質問① 974の回答では、「重要水防箇所は全て対策施行の区間となっている。」とのことでしたが今回の回答では、「宇治川には堤防補強区間以外にも重要水防箇所が残っている。今後検討。」と回答されています。どこの箇所が計画外なのかお示してください。
- ⑤ 受付番号 1233 866 への再質問① 戦後最大洪水なら現行ダムで可能だが、昭和 57 年台風 10 号型洪水の場合は、不足する。との回答ですが、10 号型洪水の場合の流入量、流出係数等の算出数を回答ください。
- ⑥ 受付番号 1236 1123 への再質問① 「相当大きなものになるので」とのことですが、縦横の比率が極端に違い、また現況構造物の表示もありませんので素人にはイメージがつかめません。せめて宇治市役所に備え付けていただくなどして、3m掘削が 0.4m掘削にどう変わったのか。流速についてもお示してください。
- ⑦ 受付番号 1127 580 への再質問① この場合宇治地点は、宇治橋付近か山科川上流地点かどちらでしょうか。また残留域からの流出量 300m³/s との回答ですが、流域面積、雨量、流出係数などの具体的な計算数値を示してください。
- ⑧ 受付番号 1237 905 への再質問① 「年間を通じた流況に大きな変化は生じない。」との回答ですが、これまでの倍近い放流量が 10 日間近く続き経験したことのない流量が放流されることになるのに、また模型実験等の結果も影響も何も示さず「限られた期間の変化だから」とは、あまりにも地元を軽視した回答であると考えます。
- ⑨ 受付番号 1238 1099 への再質問① 知事から緊急要請が出される事態にはそれ相当の根拠があるはずと普通は考えます。当時の気象観測の異常な事態についての報告が

ありません。再回答願います。また「発生した長浜等の浸水被害は琵琶湖の水位上昇が原因ではない。」との回答ですが、宇治市においてもH19年9月23日に西小倉一帯が冠水し周辺住宅が床下浸水する内水災害が発生しています。

- ⑩ 受付番号 1239、1240、1241 天ヶ瀬ダムから宇治橋の流域については、合理式で計算し流出係数等を明確にされていますが、なぜこの流域だけは試算できるのでしょうか。また「他は貯留関数法で計算しているのも単純に流出係数として示すことは適切でない。」との回答ですが、それでは流出流量を計算された数式をお示してください。
- ⑪ 受付番号 1227 1089 への再質問① 「安定水利権を超える取水は発電等に影響を与えている恐れがある。」との回答ですが、天ヶ瀬発電所 190 トン、利水分 0.9 トンで 32 年間にわたって取水されてきましたが、いつどんな影響があったのでしょうか。また 600 トン放流のトンネルを掘らないとなぜ安定水利権が確保できないのでしょうか。
- ⑫ 受付番号 1228 1091 への再質問① 府県の負担が三分の一のことですが、京都、大阪、と滋賀県も該当するのでしょうか。また「市町村の負担は無い。」とのことですが、千代延委員の資料によると、大滝ダムでは事業費が当初計画で 230 億円が実際の見込みが 3640 億円に膨らみ、和歌山市は、13.7 億円が 216.6 億円に、橋本市は 6.7 億円が 105.6 億円に膨らんでいると報告されています。天ヶ瀬ダムでは市町村の負担は本当になく全て国と府県、関電の負担でまかなうのでしょうか。
- ⑬ 受付番号 1103 への質問 亀石らしく見える日数が減るのは、140 日が 40 日に減るとの認識でいいのでしょうか。掘削で 1m の水位が下がりこれが通常水位になるわけで増水すれば見えなくなります。「付近の水位低下が少なくなるような河床形状を検討中」との回答ですが、何年かかっても対策案が出せない状況であり、河床掘削すれば対策は不能であることを認め河床掘削は止めるべきです。
- ⑭ 受付番号 975 899 への再質問① 前期後期の放流で 10 日間以上続く河川は宇治川しか無いと言われています。回答では「対策工は一般的な材料や施工で実施。洪水時と後期放流時とで対策工の規模は変わらない」としていますが、あわせて 10 日以上も続く全国でも異例の河川で「なぜ変わらない」のか説明をお願いします。
- ⑮ 受付番号 602 への質問 洪水時の天ヶ瀬ダムからの放流量は 1140 トンとの回答ですが、現行ダム本体から 890 トンで天ヶ瀬発電所 190 トン放流が可能であり、60 トン分の対応でいいのでは。また後期放流時は、宇治発天ヶ瀬発電所を含めて 1500 トンと回答されています。であるならトンネル放水路は 600 トンでなく 360 トンで良いのでしょうか。
- ⑯ 受付番号 709 への質問 ダム本体にさらに放流口を設けることは、「世界の技術からして可能」と言い続けてきたことは何だったのでしょうか。アーチ式ダムを支える岩盤に日本一のトンネルを設けることの危険性の検証が不明です。「150m 離隔距離を確保する」とのことですが、当初からの計画だったのでしょうか。また現在左岸には発電所の放水路などどれだけのトンネルが通っているのでしょうか。

以上、よろしく願います。